名古屋市立大学大学院人間文化研究科　人間文化研究　第11号　2009年6月

〔学術論文〕

SETのコアイメージは「据える」で妥当か
—にがりは豆腐を据えることができるか—
Is the Core Image of SET Correct? : Can Nigari Set Tofu?

品　原　健　征
Kensei Shinahara

要旨　近年、基本語の習得の重要性が指摘され久しい。一方で、コアイメージの提唱が行われ、コーパスを基にした辞書も作成されるなどして、理解しやすい教材が多く開発されている。語の中心的概念を表すコアやコーパスをもとにした辞書は、基本語の習得に有効的であり、利点があると考えられる。しかし、個々の基本語に注目すると、まだまだ改善の必要があるものが存在する。基本語SETのコアイメージは、果たして妥当なのだろうか。もっと適切なSETのコアイメージが存在するのではないだろうか。本稿は、本当にSETのコアイメージが、提唱されている「据える」で妥当かどうかを検証する。既存の辞書やコアイメージの問題点を指摘し、日本人英語学習者にとってよりわかりやすい辞書表記と新しいコアイメージの提案を行う。筆者は、SETのコアイメージは「据える」ではなく、「ある状態にする」である、と主張する。

キーワード：コア、SET、語彙、基本語、語義、辞書

1.「コアイメージ」の誕生

日本では、教科としての英語学習が義務教育中に始まり、学習者は、日々、英語を理解するよう努めるだけでなく、使いこなすことを願い学習を続けている。2002年に文部科学省は、「英語が使える日本人育成のための戦略構想」を打ち出したものの、中学、高校の現場ではまだまだ改善の余地が存在している。

日本における英語学習は、西洋化が進んだ1860年代以降、急速に広がった。鎖国によって近代化が遅れたゆえに、外国の思想や理論を日本に取り入れるため、当時、英語で書かれた書物を日本語に置き換えることが大変重要であった。日本国内では、外国人がほとんどいない状況であったことを考慮すると、英語を日本語に置き換えることが英語を話したり書いたりすることよりも重要視されていたことは容易に想像できる。当時から学校教育の英語の授業の中でも、文法訳読の授業が主流であり、いまだにその流れが多くの学校教育の中で根付いている。

しかし、日本が近代化した今日において、英語が使えることの重要性が認識され、英語を日本

語に訳すだけに留まらず、英語をどのように話したり、書いたりするのかといった、英語のアウトプットに関心が移りつつある。

英和辞典に注目すると、かつての英語学習の流れを受け、辞書の多くには、１つの英単語に対して、様々な日本語の語義が並び、学習者は、そのどれをも覚えなければならない。英語学習者は、たくさんの語義から文脈に最も適した語義を選ぶという作業を迫られている。しかし、英語と日本語の１対１の語義対応の学習だけでは、英語本来の意味を理解し、英語を使い切ることは、なかなか難しいと思われる。

近年にわかに、基本語を習得するための重要性が認識され始めている。辞書には多くの定義や日本語訳が並び、語句を日本語に置き換えるという点においては、ひじょうに役立つ一方で、使い切るという点においては、必ずしもそれぞれの語義の関連性が見えず、語義数が多くて学習者に大きな負担になっているように思われる。

この問題に対して、田中（2007a、2007b、2007c）は、基本語に中心的概念であるコアイメージを提示し、このコアイメージを応用することで、日本語の意味がそれぞれ共演者（基本語と同時に共起する語）によって変わることを以下のように主張した。「基本語の意味は、複雑で多岐にわたるのではなく、単純で曖昧だ。そして曖昧だからこそ、いろいろな状況に使うことができる」（田中2007a：まえがき）。

田中は、英語学習の流れの１つのアプローチとして、コア理論を用いた学習を提案している。この理論は、今後、英語教育に大きく貢献すると筆者自身は考える。しかし、個々の語のコアイメージに注目すると、改善の余地があるものもあると考えられる。そのような具体例として、筆者はSETという基本語があると考える。そこで本稿では、他動詞SETに注目し、筆者が疑問を感じる点を指摘し、SETの新たなコアの試案を提示したい。

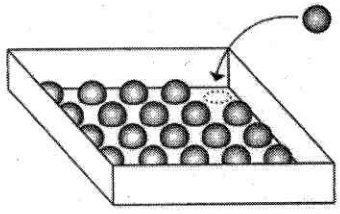
2. SETをめぐる疑問

この節では、英和辞書のSETの記述において、筆者が疑問に思う点を指摘する。

2. 1 『エクスプレスＥゲイト英和辞典』（以下、『Ｅゲイト』）

『Ｅゲイト』は、コアイメージを反映させた英和辞書の１つである。SETのコアイメージを「据える」と定義し、以下のような図を提示している。

コアイメージ

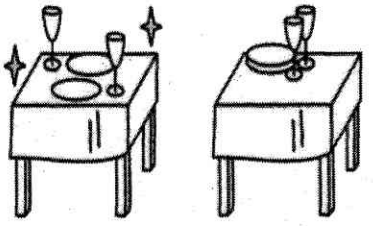


さらに、このイメージを利用し、語義を10に分け、[表1]のように例文を紹介している。

[表1]

語義	例文
1. 置く、据える、(物)をはめ込む	(1) She set the candle on the table. 彼女はテーブルの上にろうそくを据えた。
	(2) Set the sofa by the fireplace. ソファを暖炉のそばに置きなさい。
2. …を用意する整える；(機械などを)設定	(3) I set the table for dinner. 私は夕食の食卓を準備をした。
	(4) I set the alarm for 8. 8時に目覚ましを合わせた。
3. (時間など)を定める、設定する；(値段を)つける	(5) Let's set the date for the party. パーティーの日取りを決めよう。
	(6) He set a price of $50,000 on the painting. 彼はその絵に5万ドルの価格をつけた。
4. AをB(ある状態)にする	(7) They set the prisoners free. 彼らは囚人たちを自由にした。
	(8) The flag was set on fire. 旗に火がつけられた。
	(9) She set the toy going. 彼女はおもちゃが動くようにした。
5. (見本・課題など)を定める、示す；(記録)を立てる	(10) Mr. Yamada set a lot of homework. 山田先生は、たくさんの宿題を出した。
	(11) Phil set a new world record. フィルは世界記録を樹立した。
6. (物)を<…に>あてる、つける	(12) She set her lips to the flute. 彼女はフルートに唇を当てた。
7. (物語など)の背景を<…に>設定する	(13) He set his novel in the Middle Ages. 彼は、小説の時代を中世に設定した。
8. Aに・・・させる	(14) She set her son to clean his room. 彼女は息子に部屋を片付けさせるようにした。
	(15) I set myself to focus on the matter. 私はそのことに集中しようとした。
9. …を整える；(折れた骨など)を整復する	(16) Mary set her hair. メアリーは髪をセットした。
10. …を固める	(17) Nigari sets tofu. にがりは豆腐を固める。

[表1](1)(2)の例文を見てみると、目的語のろうそくやソファをテーブルや暖炉に「据える」の解釈によって、学習者は容易にその状況を理解することができる。『Eゲイト』では、SETとPUTの違いにも言及している。set the dishes on the tableとput the dishes on the tableのコアの違いを前者は「(定められた位置に)据える」、後者を「あるところに位置させる」と定義し、「PUTは、単に置くだけで、きれいに並べない場合も含む」と説明されている。以下のように、その様子の違いを図で説明している。



（左側がSET、右側がPUT）

学習者は、PUTに比べて、SETはより丁寧な様子できちんと置かれている様子を理解できる。しかし、筆者には、いくつか疑問に感じられる点がある。次の2．2で１つずつ見ていきたい。

2．2 『Eゲイト』に対する疑問

疑問１：(3) I set the table for dinner.

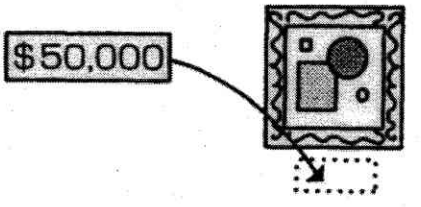
この文をコアを利用して解釈しようとすると、「テーブルを定められた位置に据える」という解釈になり、テーブルの移動を連想してしまうが、日本語訳は、「食卓を準備した」となっている。しかし、食卓の準備には、テーブル自体の移動は必ずしも必要がないので、コアにそった解釈には無理を感じる。

疑問２：(5) Let's set the date for the party.

この文の日本語訳には「パーティーの日取りを決めよう」とあるが、「決める」のであればなぜdecideでないのだろうか。もし“decide the date”と“set the date”が違うのであれば、その違いは何であろうか。

疑問３：(6) He set a price of $50,000 on the painting.

この文をコアを利用して解釈しようとすると、“on” the paintingなのであるから、筆者には「50,000ドルの値札を絵の上に据える」という解釈になり、絵に接する形での値札の移動を連想してしまう。しかし、辞書の図では、値札は絵に接しておらず、絵の下に位置しているように筆者には見え、その時の前置詞は“on”ではなく、“below”ではないのだろうか、という疑問が生じる。



疑問４：(11) Phil set a new world record.

この文をコアを利用して解釈しようとすると、「世界記録を据える」という解釈になる。しかし、記録は更新されたり、作られたりするものであって、どうしても「据える」対象には感じられない。

疑問５：(17) Nigari sets tofu.

この文をコアを利用して解釈しようとすると、「にがりが豆腐を据える」の解釈になり、に

がりが豆腐をどのような定められた位置に据えるのか、連想することができない。

以上、『Eゲイト』の説明や例文を読んで、率直に筆者が感じた疑問を列挙した。これらの疑問の背景には、「据える」対象としては、うまく馴染まない目的語の存在があるように思われる。筆者には、「定められた位置に据える」というコアイメージは、どうしても移動のイメージが強すぎて、日付、価格、世界記録、豆腐など、移動が馴染まない目的語にも適応するのは無理があるように思われる。

3. コアイメージの再検討

２節で示した５つの疑問点を認識したうえで、筆者が考える新しいコアの提示を試み、その利点を議論してみたい。

3. 1　コアの試案

筆者の試案の骨子は以下の通りである。

試案の骨子１：

SET は、ある状態を作り出す動詞である。ただし、状態を作り出す行為に関心があるのではなく、SET の関心は、その状態の存在にある。

SETを骨子１のように考えることによって、以下のようなペアの違いが明らかになるのではないかと考える。

(18a)　He put the dishes on the table.

(18b)　He set the dishes on the table.

(19a)　He established a record.

(19b)　He set a record.

(20a)　He decided a date.

(20b)　He set a date.

(21a)　He made an example.

(21b)　He set an example.

(18)のペアは、(a)のputが「テーブルに皿を並べる行為」に関心があるのに対して、(b)のsetは、「皿が、テーブルに並べられている状態」に関心があり、その状態を作り出す行為に関心はない。

(19)のペアは、(a)のestablishが「記録を作り出す行為」に関心があるのに対して、(b)のsetは、「作り出された記録の存在」に関心がある。

(20)のペアは、(a)のdecideが「日付を決める行為」に関心があるのに対して、(b)のsetは、「日

付が決められた状態」に関心がある。

(21) のペアは、(a) のdecideが「模範を示した行為」に関心があるのに対して、(b) のsetは、「模範が示された状態」に関心がある。

以下は、「作り出す行為に関心がある動詞」と「作られた状態に関心がある動詞」を表にしたものである。

［表２］

作り出す行為に関心がある動詞	作られた状態に関心がある動詞
(18a) He put the dishes on the table.	(18b) He set the dishes on the table.
(19a) He established a record	(19b) He set a record.
(20a) He decided a date.	(20b) He set a date.
(21a) He made an example.	(21b) He set an example.

特筆すべきは、これらの左と右の日本語訳がどれも同じになってしまう点である。例えば、(20) のペアは、どちらも「日にちを決めた」という日本語になる。しかし、「日にちを決めた」という日本語からだけでは、DECIDEとSETのどちらの動詞が適切か、という判断は不可能である。ここで、当然生まれてくる疑問は、ネイティブスピーカーは、どのように使い分けるのかということである。この点について、同じ「決める」でも、DECIDEは「決める行為自体」に関心がある動詞であるのに対し、SETは「決められた状態の存在」に関心があると筆者は考えた。SETは「作られた状態に関心がある動詞」という理解に立てば、日本語訳が同じでも使い分けることが可能になるのではないか。同様のことが、PUT、ESTABLISH、MAKEなどとの使い分けにも言えるのではないか、と考える。

試案の骨子２：

SETが作り出す状態の記述は、２種類ある。SETされる対象（目的語）がどのような状態になるのかが言語化される場合と、言語化されない場合である。

これは、SETの構文と密接に関係していると考える。［表３］は、この２種類を表にしたものである。（英文の左横についている数字は、『Eゲイト』で示された語義と例文の番号である。）

［表３］

言語化される場合	言語化されない場合
S+ set ＋X ＋Y	S ＋ set ＋ X (y) ＋ *a*
Yは目的語XがSETされる状態	目的語に状態が内在化され、*a* は情報の追加
4 - (7)　They set the prisoners free.	5 - (10)　Mr. Yamada set a lot of homework.
1 - (1)　She set the candle on the table.	- (11)　Phil set a new world record.
- (2)　Set the sofa by the fireplace.	9 - (16)　Mary set her hair.
4 - (8)　The flag was set on fire.	10 - (17)　Nigari sets tofu.
6 - (12)　She set her lips to the flute.	2 - (3)　I set the table *for dinner* .
7 - (13)　He set his novel in the Middle Ages.	- (4)　I set the alarm *for 8* .
4 - (9)　She set the toy going.	3 - (5)　Let's set the date *for the party* .
8 - (14)　She set her son to clean his room.	- (6)　He set a price of $50,000 *on the painting* .
- (15)　I set myself to focus on the matter.	

まず、SETされる対象（目的語）がどのような状態になるのかが言語化される場合（表３の左側）に注目してみると、SETの目的語のあとに状態を表す語句が後続している（つまり、言語化されている）ことがわかる。（状態部分には下線を施した。）例えば（1）では、SETは、目的語the candleが、on the table にあるという状態を作り出している動詞と見ることができる。（置くという動作に関心があるのではなく、置かれている状態に関心が向けられている。）

また、（9）では、SETは、目的語the toyが、goingの状態を作り出している動詞と見ることができる。（動かすという動作に関心があるのではなく、動いている状態に関心が向けられている。）仮に目的語をXであらわし、状態をYで表すとすると、〔X is Y〕の関係にあると言える。この関係を示したものが［表４］である。

［表４］　状態の表現方法

目的語	どのような状態に	
the prisoners	(are) free	形容詞句
the sofa	(is) by the fireplace	前置詞句
the candle	(is) on the table	
the flag	(is) on fire	
his novel	(is) in the Middle Ages	
her lips	(are) to the flute	
the toy	(is) going	現在分詞
her son	(is) to clean his room	to　不定詞
myself	(is) to focus on the matter	

目的語Xと状態Yの関係は、「XがYである状態」と考えることができる。Be動詞を補えば、XがYの状態になるという関係が見えてくる。さらに、be動詞に後続する語句に注目すると形容詞句、前置詞句、現在分詞、to 不定詞の4種類に分けることができる。最後のto 不定詞について補足すると、（15）She set her son to clean his room.は、“her son is to clean his room”とい

う状態を作り出している英文であると考えられる。「彼女の息子が、これから自分の部屋を掃除するという状態を作り出した」の意味になり、「彼女の息子が、掃除をしなければいけない状態にあること」に関心が向けられている英文である。

次に、[表３]の右側を見てみる。まず、(10) (11) (16) (17) を見ると、表の左側とは異なり、目的語の後に何も後続していないことがわかる。例えば、(16) のset her hairでは、her hairの後に形容詞句、前置詞句などが共起しておらず、どのような状態にされるのかは言語化されていない。しかし、「髪をセットする」と言われただけで、「彼女が気に入る髪型の状態」にされることを理解することが可能であると考える。同様に (10) のset a lot of homeworkでは、「宿題が課された状態」に、(11) のset a new world recordでは、「世界記録が作り出された状態」に、(17) のset Tofuでは「食べごろのちょうどいい固さの状態」にされることを理解することができるだろう。

一方、(3) ～ (6) であるが、目的語の後にはfor dinner、for 8、for the party、on the paintingの前置詞句 (斜字体) が確認できる。しかし、これらの斜字体になっている前置詞句は、表の左側の下線で表した前置詞句の (Y) とは異なり、目的語の状態を表しているのではないと考える。つまり、the table is for dinnerやthe alarm is for 8のような[X is Y]の関係には相当しない。単なる情報の追加にすぎない。

[表５]は、「状態が言語化されない」例文において、目的語の中に内在している状態が、どのようなものかを日本語で補ったものである。それぞれの目的語がどのような状態になるかを示している。

[表５]

調整が内在している目的語	どのような状態に
a lot of homework	生徒にとって多めの宿題
a new world record	ある競技で世界一になるための状態
her hair	その人が好む髪型の状態
tofu	食べごろのちょうどいい固さ
the table	食事が出来る状態
the alarm	目覚ましが機能する状態
the date	都合がいい日程
a price of $50,000	消費者に買ってもらうための定価50,000ドル

[表5]に示したように、連想される状態は目的語によってまちまちである。「どのような状態に」という解釈は、それぞれの目的語によって異なるが、これを理解できないわけではない。どんな目的語にもそれぞれの状態があるのではなく、このタイプの構文を活用するためには、「○○をセットする」と言われたら、社会的に期待されている状態が共有される目的語にしか使われないのではないか、と筆者は考える。

4．疑問点に対する説明

3節で示した仮説に基づいて、筆者が2節で挙げた5つの疑問に答えることにする。

疑問1：(3) I set the table for dinner.

この英文は、筆者の見解では、SETによって作り出される「状態」は言語化されていない場合と考える。どのような状態になるのかというと、「(お皿、ナイフ、フォークなどを並べて) 夕食を食べることができる状態」と考えることができる。もしそうであれば、「食事ができる状態」を作り出した結果"the table is set"や"the table is ready"という状態に関心があると考えられる。そもそも、違和感を感じた「テーブルの移動」は関心事の中心ではない。そして、その状態が継続中であり、夕食はいつでも食べられる状況が読み取れる。テーブルの移動をしているのではない。「テーブルをセットする」とは「食事の準備をした状態にする」という状態を指しているのである。

疑問2：(5) Let's set the date for the party.

この英文においても状態は、言語化されておらず「(パーティーを開催できる) 日付」を決定し"the date is set"の状態がある、という意味が隠されていると理解する。つまり、"The date is set"の状態を作り出したことを意味する。「日付をセットする」とは、「パーティーの日程を調整した状態にする」という状態が理解されているのである。

疑問3：(6) He set a price of $50,000 on the painting.

この英文も同様に「状態」は言語化されていない。「(消費者が買うのにちょうどいい)状態」を決定し、"a price is set"という状態があるという意味が隠されていると理解する。ただ単に、decide a price (値段を決めた) だけではなく、その決まった値段が据え置きされている状態が続いているのである。

疑問4：(11) Phil set a new world record.

この英文もやはり「状態」が言語化されていない。どのような状態になるかというと、「(フィルが世界記録を樹立した) 状態」を作り出し"A new record is set"の状態を作り出した、と理解する。

疑問5：(17) Nigari sets tofu.

この英文も「状態」は言語化されていない。どのような状態になるかというと、「(にがりが豆腐をたべごろの絶妙な固さに調整した) 状態」にして、「豆腐が液状のものから固形状の状態」になり、その固まった状態が続いているのである。

以上のように考えると、「据える」のコアでは疑問が感じられた英文も解釈できるように考える。

5．まとめ

以上のように考えると、状態を作り出す行為に関心がある動詞とSETとの間で、日本訳が同じになり、違いを表す日本語訳が存在しないことがSETの理解を妨げていた原因の１つであるように思われる。しかしながら、日本語訳が同じであるにも関わらず、学習者がそれぞれの動詞の個性をきちんと認識すれば、決して理解できないことはない。SETを使い切るためには、動作の行為よりも、作られた状態が継続していることに関心があることを知らなければならないのである。

SETとPUTの日本語訳が同じ場合、その違いを表す頼りをどこに求めてきたのだろうか。少なくともSETに関する限り、英和辞典ではその動作の行為の質に焦点をあて、違いを出そうとしていた。筆者は、その違いを伝えたいメッセージの内容（SETの場合は、作り出した状態の継続）に注目して、他動詞SETの個性を明らかにするよう試みた。そうすることで、日本語訳が同じになるPUTやDECIDEなどとの違いを明らかにできると考えたからである。

また、目的語に後続する状態を言語化する表現パターンと言語化しない表現パターンを押さえていれば、使い切るということに関して、学習者が自ら英文を組みたて、もっと自信をもってアウトプットできるようになると考える。これも正しくSETを使い切るためには重要な知識である。

SETは、状態を作り出す動詞である。しかし、その状態を作り出す方法は問わない。目的語に視覚的な動作を伴う場合もあれば、動作を伴わない場合も存在する。また、状態を作り出す主体主を表す場合は、SVOで表すのに対して、状態を作り出す主体主を表す必要のない場合は、受身にすればいいのである。その行為に動作が伴うかどうかは問題にしない。ただ、動作によって作られた状態に関心が置かれていることは、終始一貫する。

現状のコア「据える」は、すべての目的語に適応させるのは、移動の動作を連想させるため無理があるように思われる。また、語義数が多くなると学習者に負担を与えてしまう。出来る限り語義数を少なくし、かつ応用できるコアが「ある状態にする」なのである。

6．終わりに

日本の英語教育において、近年コミュニケーション能力の育成が叫ばれ、英語を話すためには文法は必要ない、といった極めて偏った考えを耳にする。しかし、前置詞句の特徴をSETの解釈時に分類したように、英語学習には、英文法は欠かすことの出来ない要素である。文法の存在しない言語は存在しないのだから、外国語として英語を学習する上で、文法は必要不可欠なものである。コアイメージを利用し、質の高いインプットと共に、文法できちんとその知識を整理すれば、自ずとアウトプットへの能力は養われると考える。

１節で紹介したように、「基本語は複雑で多岐にわたるのではなく、単純で曖昧だ。そして曖昧だからこそ、いろいろな状況に使うことができる」（田中2007a）。しかしながら、基本語の意

味を曖昧にしている要因を特定してこそ、学習者にとってわかりやすいコアの提唱が出来る、と考える。それには、まずSETと共起する語句との共起関係、修飾関係にまで考慮した上でのコアの提唱が必要であると考える。そうしないと、他の動詞との類似点や相違点も見えないまま、これまでのように英語と日本語の1対１の退屈な暗記作業を継続することになってしまうだろう。特に、基本語がもたらす類義語との違いを学習者がきちんと理解しなければ、それぞれの語を使い切ることは難しいように考える。

本稿では、基本語SETの「ある状態にする」という新しいコアを提案するとともに、目的語と前置詞句との修飾関係によって状態が言語化されるものと言語化されないものに分け、語義提示を試みた。学習者が、英語を使い切るようになるためには、基本語のコアだけでなく、それぞれの語句が、文中でどのように機能し、潜在的にどのような性質を持っているのかをきちんと蓄積していく必要がある。

最後に、副題の「にがりは豆腐を据えることができるか」であるが、筆者の答えは「できない」である。しかし、「にがりは、豆腐をちょうどいい固さの状態にすることはできる」ことを改めて指摘しておきたい。

【引用文献】

田中茂範他（2007a）『イメージでわかる単語帳』日本放送出版協会

田中茂範他（2007b）『エクスプレスＥゲイト英和辞典』ベネッセコーポレーション

【参考文献】

井上永幸、赤野一郎（2007）『ウィズダム英和辞典』（第2版）三省堂

竹林茂他（2003）『新英和中辞典』研究社

竹林茂他（2007）『ライトハウス英和辞典』（第５版）研究社

田中茂範（1993）『英単語ネットワーク・基本動詞編』アルク

田中茂範、川出才紀（1994）『動詞がわかれば英語がわかる』ジャパン　タイムズ

田中茂範他（2007c）『エクスプレスＥゲイト英和辞典携帯版』ベネッセコーポレーション

田中茂範他（2006）『絵で英単語動詞編』ワニブックス

Della Summers（2004）『ロングマン Active Study 英英辞典』ピアソン・エデュケーション

Geoffery Leech 他（2006）『ロングマン英和辞典』ピアソン・エデュケーション

（研究紀要編集部は、編集発行規程第５条に基づき、本原稿の査読を論文審査委員会に依頼し、本原稿を本誌に掲載可とする判定を受理する。2009年5月15日付）。